

「デング熱」について

平成 27 年 7 月放送

井上 仁

今日は、デング熱についてお話します。去年 8 月、およそ 70 年ぶりに、東京代々木公園で感染したと考えられるデング熱の報告があり、テレビや新聞で報道されました。その後全国で 162 人の感染者の報告がありました。入院治療が必要であった感染者が多かったのですが、幸い命に関わるようなことはありませんでした。



デング熱は、福井県内でも生息する、蚊（やぶか）に刺されることで、デングウィルスというウィルスが体内に入り感染します。症状は、およそ 3 日から 7 日ほど経過して、急に高い熱をだし、目の奥の痛みや頭痛、筋肉痛、関節痛などの体の痛みを伴うことが特徴です。ごくまれに、腹痛や嘔吐、出血など症状が重い場合があります。初めはインフルエンザと似ているところがありますが、デング熱は夏に流行すること、短期間で感染したかどうかの検査ができないことや、今のところ治療薬がないのが、インフルエンザと違うところです。したがってデング熱に感染したかどうかの診断は、医療機関に受診した時、蚊に刺されたあとに急に熱がでたこと、体のあちこちに痛みがあることを必ず伝えていただきたいのです。デング熱にかかったかどうかの正しい診断は、まず疑うことから始まります。また、治療は、解熱剤や点滴などを行いながら、症状が良くなるまで経過観察することになります。ふつうは、発症してから 1 週間ほどで良くなることがほとんどです。

デング熱は、去年福井県内での国内感染による報告はありませんでしたが、媒介する蚊は、5 月頃から活動をはじめていますので、夏から秋にかけては今年も福井県内からも感染者がでてくる可能性があります。そこで、気をつけていただきたいのは、アウトドアなど蚊がたくさん飛んでいる場所へ出かけるときは、皮膚をなるべく露出せず、虫よけスプレーを使用するなど、まず蚊にさされないように注意することが大切です。

これまで、今年 5 月 10 日時点でのデング熱の全国感染報告数は 80 人で、す

べて国外で感染し帰国後発病したことがわかっており、都道府県別では東京が23人で最も多くなっています。デング熱は例年8月から9月に感染者が増加し、去年も国内感染例の80%が9月に診断されていますので、気をつけないといけないのはこれからです。暑い夏、体調管理に気をつけ、キャンプなど屋外で長時間過ごす場合には、蚊に刺さされないように十分注意してお過ごし下さい。